

令和3年度 第1回 学校関係者評価委員会

日時：令和3年7月15日（木） 14:00～

場所：503 教室

企業等委員 出席者：野柳、村川、中谷、萩原、清行、安村（敬称略）

学校 釜谷、池尾、田中、上野、西村、木下、辻井、竹中、保田（敬称略）

令和3年7月15日

学校関係者評価報告書

履正社スポーツ専門学校北大阪校

学校関係者評価委員会

1-1 理念目的人材像は定められているか。

適切に定められている。

1-2 学校の特色は何か。

スポーツと医療を融合したカリキュラムを多彩に取り入れ、人類の健康維持、増進、向上にむけて効果を引き出せる、教育資源の投下が求められている。特に後期高齢者の増加に対する年齢人口構成比率の変化に伴い、高齢者に対する医療とスポーツの利点を相乗効果させ、国家の喫緊の課題である健康寿命の延長に寄与する。様々な角度から国家と社会に貢献できる人材の育成を目的にしている。

1-3 学校の将来構想を抱いているか。

年齢人口構成比率の変化から発生する様々な高齢者疾患や青壮年者の生活習慣病、近年増加している若者の生活不活性動態に伴い、スポーツを通じた健康志向の意識向上や取り組みに向けた健康維持への自立的行動ができるような治療家、指導者たる人材を育成する。現役生だけでなく、社会人や大学卒業者、主婦や退職者などへの学び直しのチャンス、有資格者向けのキャリアアップの対応など、幅広い年齢層が学べる環境づくりが必要とされる。

2-4 運営方針は定められているか。

明確に定められている。

2-5 事業計画は定められているか。

明確に定められている。

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか。

校務分掌、部会、委員会、組織図に基づき、円滑な運営に取り組んでいる。

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。

新規採用、中途採用とも学校採用基準により定められている。賃金については、一定の基準の下、成果に応じた賃金決定がなされている。

2-8 意思決定システムは確立されているか。

校務分掌、部会、委員会、組織図に基づき、明確に実施されている。

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

パソコン処理や情報の共有化、業務の迅速化、効率化の向上に努めている。メインサーバーを設置し学科内での情報の共有化を行っている。情報漏洩等に関しても、厳格に対策が施されている。

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。

3学科とも新たなカリキュラムにて進めている。ただ、年齢人口構成比率の変化により認知症や脳血管障害後遺症の患者など、高齢者特有の領域と分野の履修内容を多分に含めることが重要である。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達する事が可能なレベルとして明確に定められているか。

シラバスに基づき、各科目の教育目標と学年配当が規定されている。選択制による海外研修の実践や実習教育を重視する視点から、現場で期待される人材を社会に送り出してきた実績があり、修得目標の設定は適切であるといえる。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか。

社会のニーズや経済及び関係する制度の変動、変化に基づき、選択授業、特別授業、集中スクーリングを取り入れ、学年ごとに体系的系統的に編成をされており、適正に実施されている。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。

基礎分野から専門基礎分野、専門分野、応用分野、そして臨地実習、臨床実習へ段階的系統的に組み入れている。座学知識と臨床現場での経験がかい離しないように考慮されている。また海外研修などの選択科目も配当し、毎年の検討委員会も実施され、学生の要望を反映した内容となっている。

3-14 授業評価の実施、評価体制はあるか。

学科長、担任などが単位認定者(教科担任)への授業状況のヒアリングや調査を実施し、教務会などでフィードバックされ、以降の授業に反映されている。講義終了後の評価(単位認定試験)をもとに、難易度や授業概要などの調整を単位認定者と行っている。

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。

養成施設指定規則の基準・資格に基づく教員を採用している。多様な経験を持つ社会人教員や、臨床・専門教育経験が豊かな人材の採用を行っている。

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。

学則、学生便覧にも明確に記載しており、適正である。

3-17 資格取得の指導体制はあるか。

国家試験対策授業、チューターによる補習授業、個別指導、既卒生対象の受験講座などを実施している。また、選択授業の受講により、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーや、介護職員初任者研修修了、柔道有段者資格、赤十字救急法救急院資格など、様々な資格講座を設け、各学科で取得できる免許を基礎資格に、付加価値を身につけるように指導されており、適正に実施されている。

3-18 生涯学習に対して積極的に取り組んでいるか。

卒業生と連絡を密に取り、学術大会や海外研修、解剖実習への参加を呼び掛けており、適正に実施されている。

3-19 付帯教育事業に対する取り組みの組織・体制は明確になっているか。

現在、おこなっていない。

4-20 就職に関する目標を達成したか。

就職担当の教員が個別に学生の相談にあたっている。就職を希望する者に対して、就職率は100%である。卒業生の開業や転職に対しても個別に相談、紹介を行っており、適正に実行されている。

4-21 資格取得に関する目標を達成したか。

100%の合格を目標にしている。現在、合格率は全国平均レベルにとどまっているが、受験講座が充実しており向上が期待される。

4-22 退学率の低減に関する目標を達成したか。

目標は達成されているとは言い難いが、対策として、入学直後の個別面談や成績指導面談などを実施している。卒業生チューター制度を取り入れ、学生の学内、学外の生活変化を敏感にとらえるように、担任への支援活動と取り組みを実施している。また、専任のカウンセラーをも配置しており、改善に向けての取り組みがなされている。

4-23 卒業生・在校生は社会で活躍し、評価を得ているか。

在学中の実習・体験型教育活動を重視しており、またインターンシップを実施し、卒業生に関しての評価は高い。在校生もコミュニケーション能力が高く、企業からの求人が多い。

5-24 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか。

キャリアセンターを設け、学科担任と連絡調整を行い実施されている。インターンシップなどの就業体験も実施され、適正に機能している。

5-25 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか。

入学直後より、担任が個人面談を実施しており、チューターにも学生相談の受け入れを指示している。前期後期の単位認定試験終了時に全員と個人面談を実施し、学業や生活面においても相談・支援を行っている。キャリアセンターと担任、チューター間の連絡調整も有効に機能している。

5-26 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか。

履正社特別奨学金制度を導入し学費の減免を行っている。また経済的もしくは家庭的事情に配慮し、分納や延納の対応も行っており、支援を適正に行っている。教育連携医療機関と提携し、学業に無理のない範囲で在校生の就学勤務を推奨し、経験値の加算と収入の確保を目指し就学中断者の低下を目指している。

5-27 学生の健康管理を担う組織があり、有効に機能しているか。

年に1度、健康診断を実施している。近隣の診療所に校医を依頼し、急なけがなどの対応を行っている。附属鍼灸接骨院を設置し、学生がいつでも受診できるようにしている。

5-28 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか。

クラブ活動は本校規約の下、活動費を援助し支援している。医療機関や介護施設でのボランティア活動なども積極的に紹介されており、有効に機能している。

5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。

学生寮は所有していないが、提携している業者を紹介し、支援を実施している。

5-30 保護者と適切に連携しているか。

数日の無断欠席や学業不振者においては、保護者と担任が連絡を密にし、場合によっては3者面談などを実施している。各期の履修単位の取得状況は保護者宛に通知されており、家庭指導においても深く連携が取られている。

5-31 卒業生への支援体制はあるか。

校友会組織が整備され定期的に活動を実施している。全卒業生に宛て、業界情報や変動の状況を定期的にメールを送信し、開業や転職などの相談を受け入れており、支援体制は整っている。

6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。

スポーツ施設として体育館、グラウンド2か所、プール、トレーニング機器など、学校の特色に照らし十分な対応ができています。

6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。

学外実習、インターンシップについては、十分な施設を確保しており、実施されている。海外研修についても教育体制に見合う内容にて実施されている。

6-34 防災に対する体制は整備されているか。

年1回、所轄消防署に出向を依頼し、全学科学生を対象に防災訓練を実施し、避難経路等の指導を行っており適切である。

7-35 学生募集活動は、適正に行われているか。

募集要項に基づき、適正に募集活動は行われている。

7-36 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか。

学生の企業等への就職状況や資格取得実績は、ホームページならびにパンフレットに掲載されている。また、卒業生の活躍も、各学科の専用ブログに掲載し、またメールでの連絡や現地視察などで定期的に把握ならびに広報されており、それぞれ学生募集への一定の貢献が認められる。

7-37 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか。

入試委員会及び判定会議にて基準に基づき公平に判断されている。

7-38 学納金は妥当なものとなっているか。

社会状況や支出項目をチェックしながら適正な費用になるように対応している。

8-39 中期長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか。
適切に定められている。

8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。
適切に定められている。

8-41 財務について会計監査が適正におこなわれているか。
適正におこなわれている。

8-42 財務情報公開の体制整備はできているか。
公開されている。

9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。
適正におこなわれている。

9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。
対策されている。

10-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。
行われている。

10-46 自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
公開されている。

10-47 第三者機関による学校評価を受ける予定・方針は確立されているか。
現在、おこなわれていない。